
2018年度 第2四半期

決算説明資料



2018年 11月9日

2018年度 第2四半期業績

■ 業績概要	4
■ セグメント別売上高	5
■ セグメント別経常利益	6
■ 各セグメントの売上高・経常利益	7
■ 貸借対照表	14
■ キャッシュフローの状況	15
■ 設備投資・減価償却費・研究開発費	16

2018年度 通期業績予想

■ 2018年度 通期連結業績予想	18
■ 2018年度 事業セグメント間における期初予想値の組替	19
■ 各セグメントの売上高・経常利益（予想）	20
■ 年間配当（予想）	21

補足資料

■ 産業ガスならびにエネルギー関連の製品別売上高	23
■ 主要グループ会社 売上高	24

注 記 事 項

本資料に掲載されている目標数値ならびに将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

2018年度 第2四半期業績

2018年度 第2四半期 業績概要



(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減	
			金額	前年同期比
売上高	3,587	3,755	168	104.7%
営業利益	177	181	4	102.3%
(営業外損益)	11	19	8	174.7%
経常利益	188	200	12	106.6%
(特別損益)	▲7	▲10	▲3	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	109	117	8	107.5%
経常利益率	5.2%	5.3%		
ROE	4.2%	4.1%		
EPS	55.95円	60.02円		

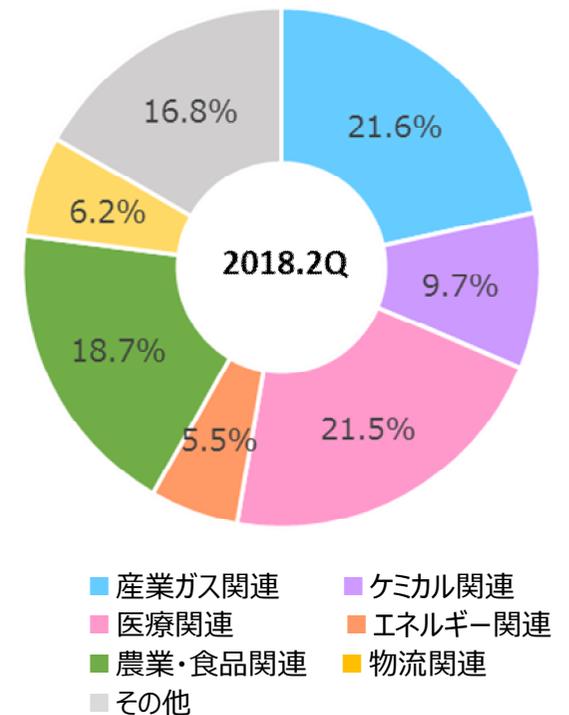
2018年度 第2四半期 セグメント別売上高

(単位：億円)

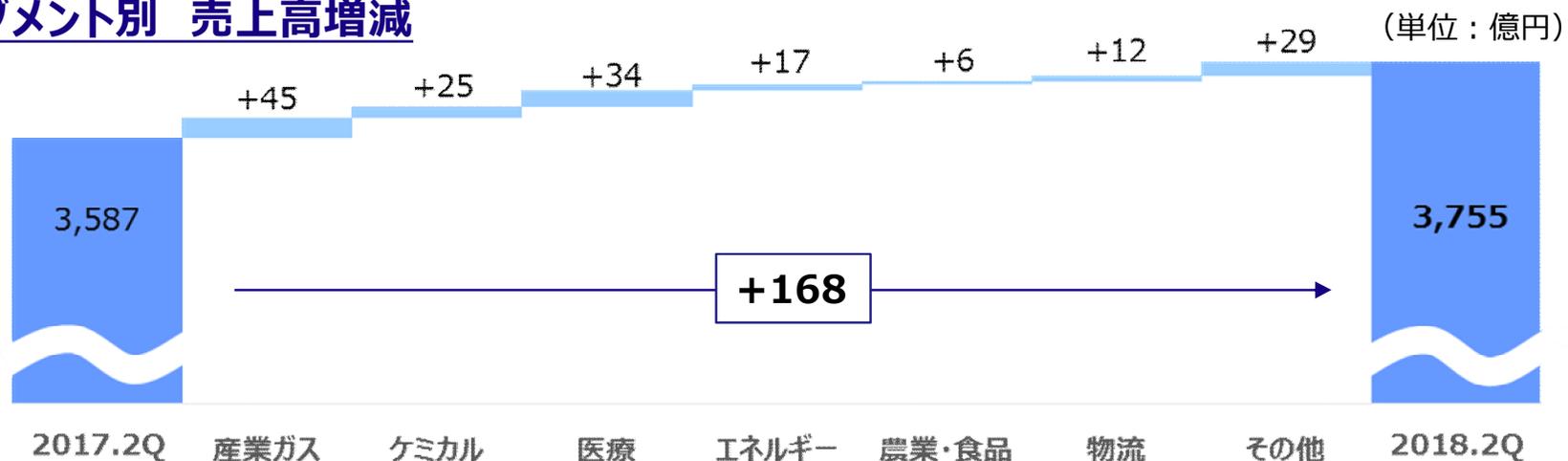


	2017.2Q	2018.2Q	増減	
			金額	前年同期比
産業ガス関連	767	812	+45	105.8%
ケミカル関連	338	364	+25	107.5%
医療関連	772	806	+34	104.4%
エネルギー関連	190	207	+17	109.0%
農業・食品関連	696	701	+6	100.8%
物流関連	223	235	+12	105.3%
その他	601	631	+29	104.9%
合計	3,587	3,755	+168	104.7%

セグメント別 売上高構成比



セグメント別 売上高増減



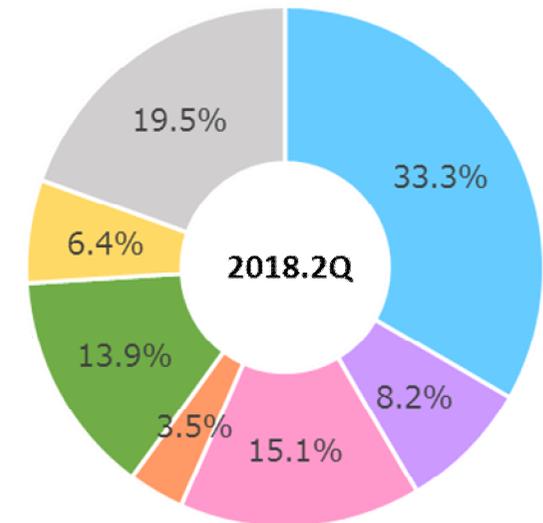
2018年度 第2四半期 セグメント別経常利益

(単位：億円)



	2017.2Q	2018.2Q	増減	
			金額	前年同期比
産業ガス関連	64	72	+7	111.6%
ケミカル関連	8	18	+10	218.4%
医療関連	32	33	+0	101.0%
エネルギー関連	10	8	▲2	75.6%
農業・食品関連	31	30	▲1	97.6%
物流関連	11	14	+3	122.9%
その他	36	42	+6	117.4%
調整額 ※1	▲5	▲16	▲11 ※2	-
合計	188	200	+12	106.6%

セグメント別 経常利益構成比

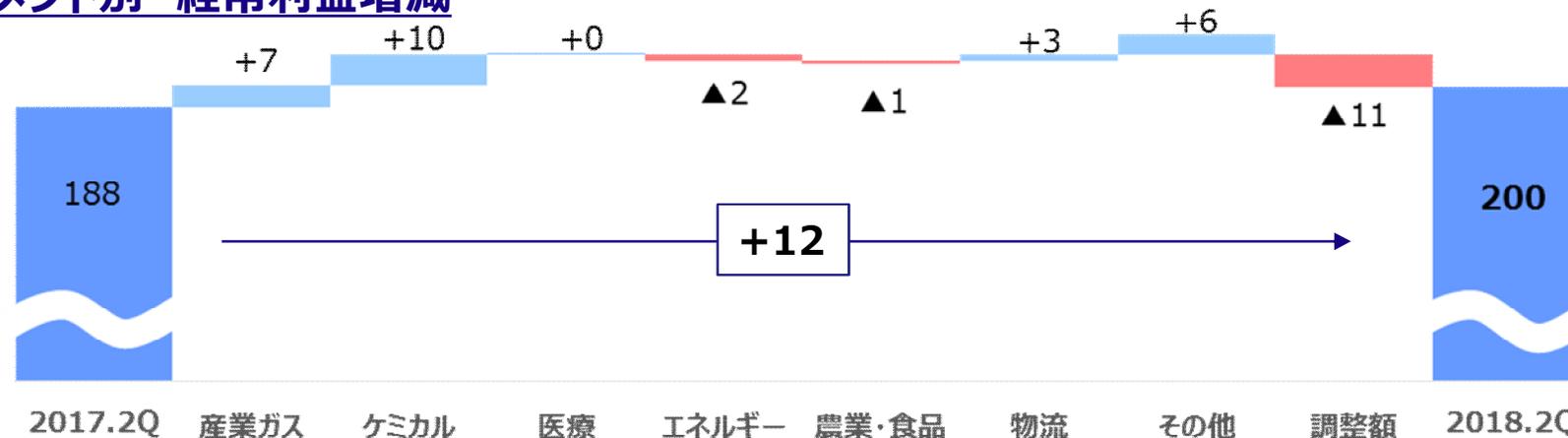


- 産業ガス関連
- ケミカル関連
- 医療関連
- エネルギー関連
- 農業・食品関連
- 物流関連
- その他

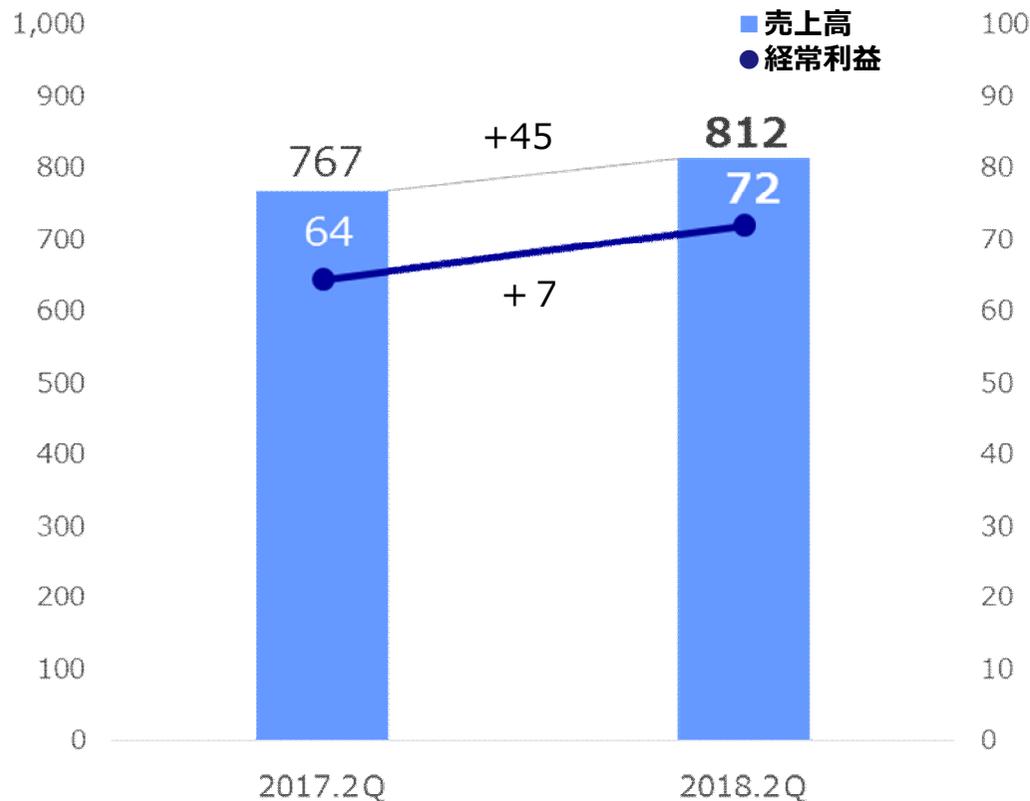
※1 調整額：各セグメントに帰属しない一般管理費等 ※2：基幹業務システムの導入等に伴うコスト増加の影響

セグメント別 経常利益増減

(単位：億円)



産業ガス関連事業



■ 売上高 812億円 (前年同期比105.8%)

- ・ローリーおよびシリンダー供給によるガス販売が増加
- ・顧客工場の操業度が回復し、高炉向けオンサイトガス供給が増加
- ・日本パイオニクスの新規連結

■ 経常利益 72億円 (前年同期比111.6%)

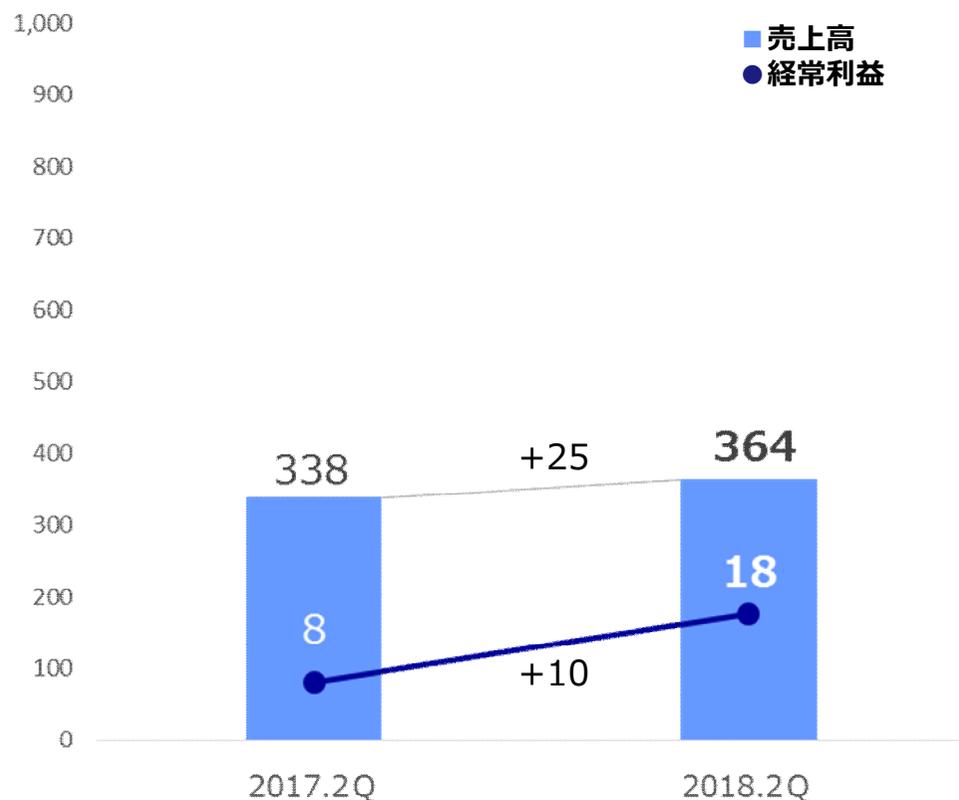
- ・ローリーおよびシリンダー供給によるガス販売が増加
- ・顧客工場の操業度が回復し、高炉向けオンサイトガス供給が増加
- ・日本パイオニクスの新規連結

■ サブセグメント別 売上高

(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減	前年同期比
ガス	575	605	+30	105.2%
機器・工事	192	207	+15	107.8%
計	767	812	+45	105.8%

ケミカル関連事業



■ 売上高 364億円（前年同期比107.5%）

- ・コークス炉精製ガスの単価および粗ベンゼンの販売価格が上昇
- ・川崎化成工業において無水フタル酸など有機酸製品の価格是正を実施
- ・ファインケミカルは、中国の生産工場において環境規制強化の影響を受け、減産

■ 経常利益 18億円（前年同期比218.4%）

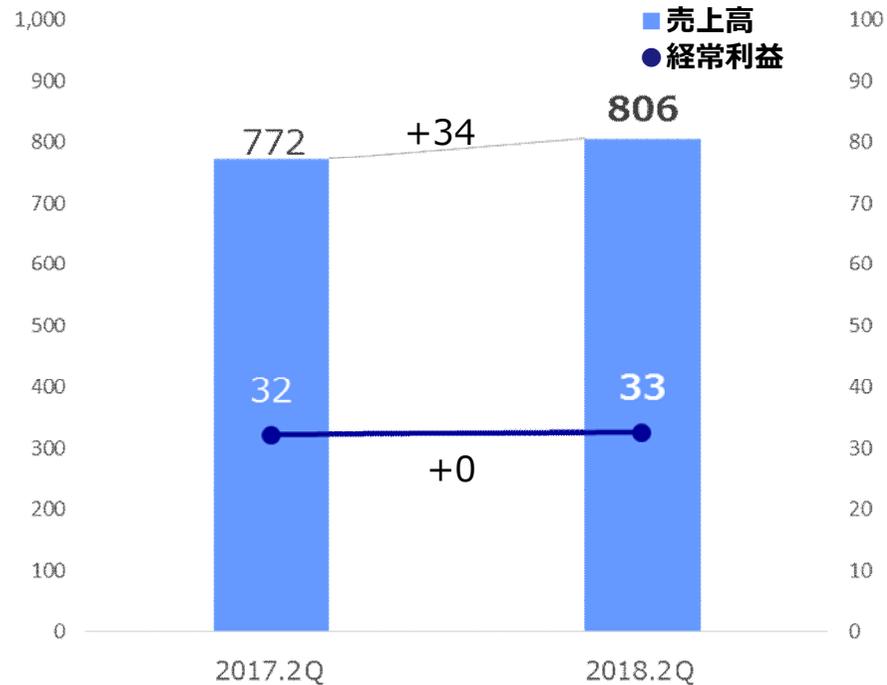
- ・市況変動により、コークス炉精製ガスおよび粗ベンゼンの収益改善が進展
- ・川崎化成工業において無水フタル酸など有機酸製品のスプレッドが拡大
- ・前年同期において計上したシーケムの持分損失が解消

■ サブセグメント別 売上高

（単位：億円）

	2017.2Q	2018.2Q	増減	前年同期比
コ ー ル ケ ミ カ ル	208	230	+21	110.3%
フ ァ イ ン ケ ミ カ ル	57	56	▲1	98.2%
川 崎 化 成 工 業	74	79	+5	107.0%
計	338	364	+25	107.5%

医療関連事業



■ 売上高 806億円（前年同期比104.4%）

- ・医療サービス（SPD、滅菌）での取引拡大
- ・グローバルワイド他の新規連結

■ 経常利益 33億円（前年同期比101.0%）

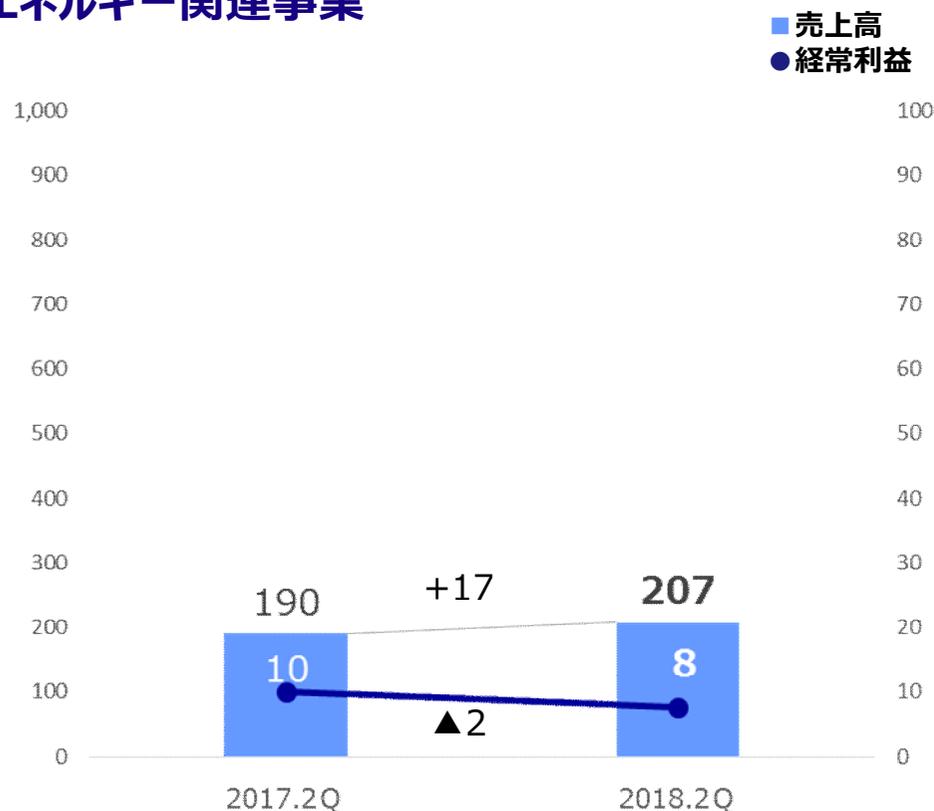
- ・医療サービス（SPD、滅菌）での収益改善
- ・設備において消火設備事業が伸長
- ・取引病院において医療用ガスの使用量が減少

■サブセグメント別 売上高

（単位：億円）

	2017.2Q	2018.2Q	増減	前年同期比
医療ガス	44	43	▲1	96.6%
設備	123	117	▲6	95.0%
医療サービス	360	379	+19	105.2%
医療機器	23	27	+4	116.4%
在宅医療	48	47	▲1	98.4%
衛生材料	115	118	+3	102.8%
その他	59	75	+17	128.5%
計	772	806	+34	104.4%

エネルギー関連事業



■ 売上高 207億円 (前年同期比109.0%)

- ・C P 価格に連動してL P ガスの販売価格が上昇
- ・工業用L P ガスの販売量が増加

■ 経常利益 8億円 (前年同期比75.6%)

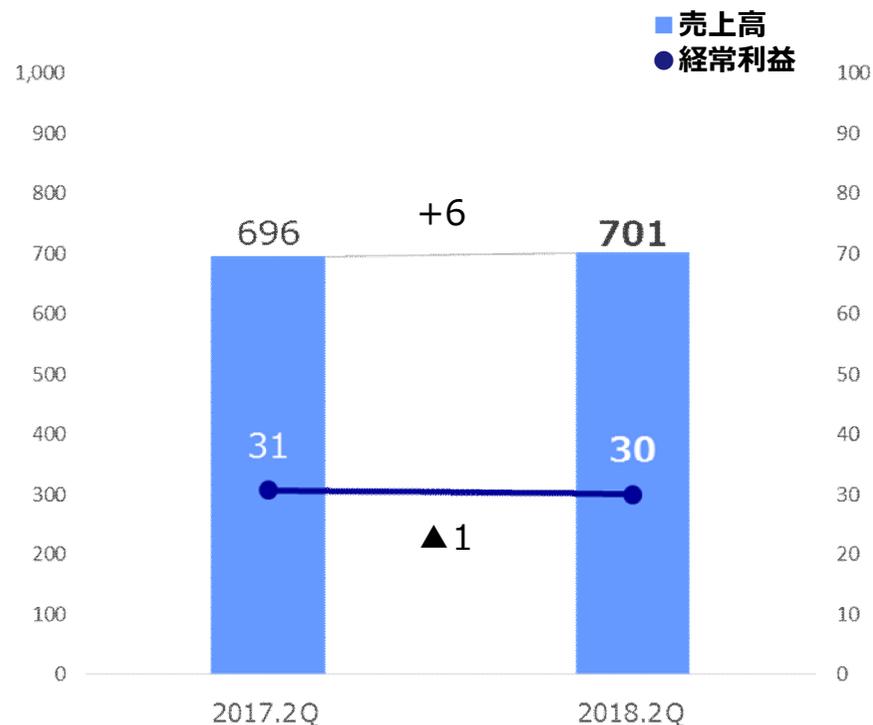
- ・灯油の販売量が減少
- ・地震の影響により、機器販売が減少
- ・配送コスト、販売促進費が増加

■ サブセグメント別 売上高

(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減	前年同期比
L P ガス	180	203	+23	112.7%
天然ガス関連ほか	10	4	▲6	39.5%
計	190	207	+17	109.0%

農業・食品関連事業



■ 売上高 701億円（前年同期比100.8%）

- ・農産において新規出店により青果小売分野の販売が増加
- ・食品ソリューションにおいてスイーツの販売が不振

■ 経常利益 30億円（前年同期比97.6%）

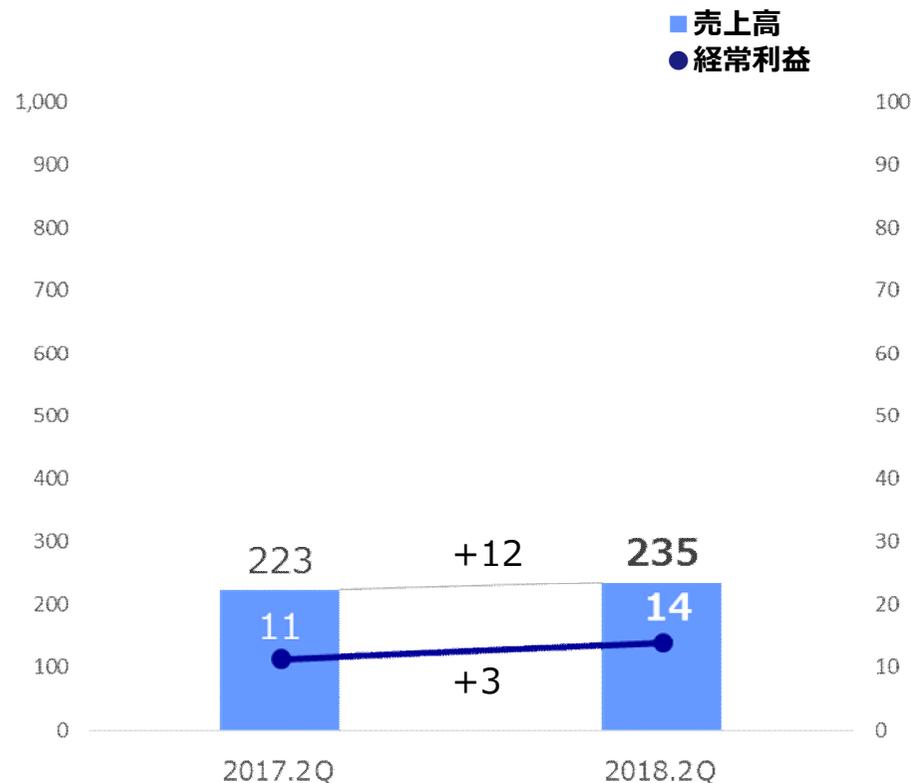
- ・農産において農業機械の販売が拡大
- ・食品ソリューションにおいて加工食品の生産効率化が進展
- ・飲料において人件費や減価償却費が増加

■サブセグメント別 売上高

（単位：億円）

	2017.2Q	2018.2Q	増減	前年同期比
農 産	203	217	+14	107.0%
食 品 ソ リ ュ ー シ ョ ン	218	208	▲10	95.3%
飲 料	275	277	+2	100.7%
計	696	701	+6	100.8%

物流関連事業



■ 売上高 235億円 (前年同期比105.3%)

- ・3 P Lにおいてコンビニチェーン向けの物流業務が増加
- ・運送において一般貨物輸送、北海道・本州間のシャーシ輸送の荷扱量が増加
- ・車体において特殊車両の製作が増加

■ 経常利益 14億円 (前年同期比122.9%)

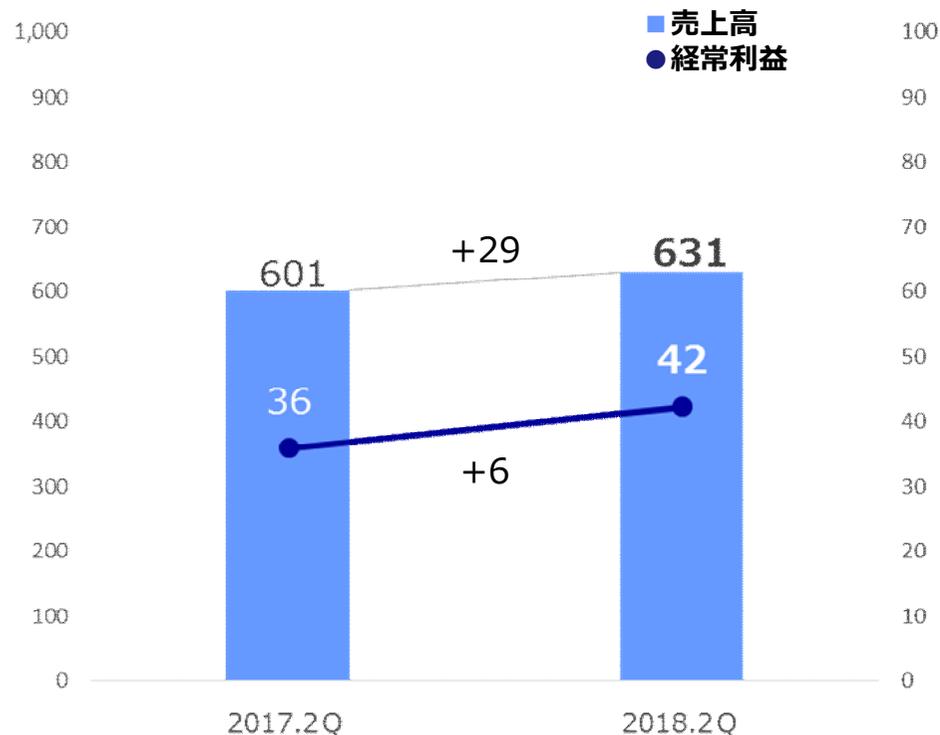
- ・車両の耐用年数変更により減価償却費が減少
- ・3 P Lにおいて受託料金の適正化が進展
- ・人件費の上昇および軽油の値上り

■ サブセグメント別 売上高

(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減	前年同期比
運 送	97	100	+4	103.9%
3 P L	101	109	+7	107.4%
車 体	25	25	+1	102.7%
計	223	235	+12	105.3%

その他の事業



■ 売上高 631億円（前年同期比104.9%）

- ・情報電子材料は自動車関連向けに販売が拡大
- ・化粧品などの人体用品を中心にエアゾールの受託が拡大
- ・日本海水の環境事業と水処理設備事業において前年同期に大型案件の計上があったことによる反動減
- ・その他においてOリングの販売が拡大

■ 経常利益 42億円（前年同期比117.4%）

- ・情報電子材料、エアゾールが堅調に推移
- ・Oリング、金属表面処理が好調に推移
- ・タテホ化学においてヒーター用電融マグネシアの原料価格が高騰

■ サブセグメント別 売上高

（単位：億円）

	2017.2Q	2018.2Q	増減	前年同期比
日本海水	137	125	▲12	91.5%
タテホ化学	45	49	+3	107.5%
海水	182	174	▲8	95.5%
ゾール	92	104	+11	112.4%
情報電子材料	186	198	+13	106.8%
その他	141	154	+13	109.4%
計	601	631	+29	104.9%

2018年度 第2四半期 貸借対照表

(単位：億円)

	2018年3月末	2018年9月末	増減	
			金額	前年比
流動資産	2,830	2,794	▲36	98.7%
固定資産	4,101	4,359	+258	106.3%
資産	6,931	7,153	+222	103.2%
流動負債	2,232	2,156	▲76	96.6%
固定負債	1,753	1,954	+201	111.5%
純資産	2,946	3,044	+97	103.3%
負債・純資産	6,931	7,153	+222	103.2%
自己資本	2,780	2,883		
有利子負債	2,032	2,202		
自己資本比率	40.1%	40.3%		
ネットD/Eレシオ	0.65	0.68		

(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減
営業キャッシュ・フロー (①)	210	237	+26
投資キャッシュ・フロー (②)	▲232	▲347	▲115
財務キャッシュ・フロー (③)	3	109	+106
キャッシュ・フロー合計 (①+②+③)	▲19	▲2	+17
現金及び預金等の四半期末残高	289	221	▲68
フリーキャッシュ・フロー	▲22	▲110	▲89

(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減
設備投資	194	274	+80
減価償却費	133	134	+1
研究開発費	14	14	+0

<セグメント別設備投資>

(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減
産業ガス関連	80	69	▲12
ケミカル関連	8	19	+11
医療関連	14	33	+20
エネルギー関連	13	14	+0
農業・食品関連	16	25	+8
物流関連	14	65	+51
その他	48	50	+1
(内、発電関連)	6	0	▲6
計	194	274	+80

2018年度 通期業績予想

2018年度 通期連結業績予想

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、期初予想の通りといたします。

(単位：億円)

	2017年度 (実績)	2018年度 (予想)	増減	
			金額	前年比
売上高	7,536	8,200	+664	108.8%
営業利益	424	485	+61	114.4%
経常利益	447	500	+53	111.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	252	280	+28	111.2%
有利子負債	2,032	2,452	+420	120.7%
自己資本	2,780	2,997	+218	107.8%
総資産	6,931	7,590	+659	109.5%
経常利益率	5.9%	6.1%		
ROE	9.4%	9.7%		
EPS	128.95円	143.21円		
自己資本比率	40.1%	39.5%		
ネットD/Eレシオ	0.65	0.75		

2018年度 事業セグメント間における期初予想値の組替



2018年度第2四半期連結累計期間より、産業ガス関連内の「海外エンジニアリング」をその他セグメントへ移管しました。

(単位：億円)

		2018年度通期			2018年度上期			2018年度下期		
		組替前	組替	組替後	組替前	組替	組替後	組替前	組替	組替後
産業ガス関連	売上高	1,860	▲70	1,790	863	▲15	848	997	▲55	942
	経常利益	190	▲3	187	77	▲1	76	113	▲2	111
ケミカル関連	売上高	700		700	342		342	358		358
	経常利益	26		26	12		12	14		14
医療関連	売上高	1,830		1,830	809		809	1,021		1,021
	経常利益	116		116	34		34	82		82
エネルギー関連	売上高	570		570	220		220	350		350
	経常利益	42		42	8		8	34		34
農業・食品関連	売上高	1,450		1,450	712		712	738		738
	経常利益	53		53	30		30	23		23
物流関連	売上高	490		490	241		241	249		249
	経常利益	25		25	13		13	12		12
その他 (海水・ソル・ 情報電子・その他)	売上高	1,300	70	1,370	613	15	628	687	55	742
	経常利益	84	3	87	36	1	37	48	2	50
(調整額)	経常利益	▲36		▲36	▲17		▲17	▲19		▲19
合 計	売上高	8,200		8,200	3,800		3,800	4,400		4,400
	経常利益	500		500	193		193	307		307

2018年度 事業セグメント別 売上高・経常利益予想

(単位：億円)



		2017年度 通期	2018年度通期			前年比		2018年度通期	
		実績	期初予想※	見直予想	差	差	率	上期実績	下期 見直予想
産業ガス関連	売上高	1,593	1,790	1,770	▲20	+178	111.1%	812	958
	経常利益	162	187	179	▲8	+17	110.7%	72	107
ケミカル関連	売上高	680	700	740	+40	+60	108.8%	364	376
	経常利益	19	26	34	+8	+15	183.4%	18	16
医療関連	売上高	1,709	1,830	1,830		+121	107.1%	806	1,024
	経常利益	103	116	116		+13	112.4%	33	83
エネルギー 関連	売上高	515	570	580	+10	+65	112.7%	207	373
	経常利益	39	42	42		+3	106.7%	8	34
農業・食品 関連	売上高	1,337	1,450	1,420	▲30	+83	106.2%	701	719
	経常利益	49	53	53		+5	109.3%	30	23
物流関連	売上高	449	490	490		+41	109.1%	235	255
	経常利益	19	25	25		+6	132.4%	14	11
その他 (海水・ソル・ 情報電子・その他)	売上高	1,253	1,370	1,370		+117	109.3%	631	739
	経常利益	82	87	87		+5	105.9%	42	45
(調整額)	経常利益	▲25	▲36	▲36		▲11	-	▲16	▲20
合 計	売上高	7,536	8,200	8,200		+664	108.8%	3,755	4,445
	経常利益	447	500	500		+53	111.9%	200	300

※ 期初予想はセグメント組替後

配当性向目標：連結純利益の30%

（単位：円）

1株あたり連結純利益および配当金					
	2016年度		2017年度 (実績)		2018年度 (予想)
1株当たり連結純利益	114.53	➡	128.95	➡	143.21
中間配当金	14.00	➡	17.00	➡	19.00
期末配当金	20.00	➡	21.00	➡	19.00
年間配当金	34.00	➡	38.00	➡	38.00

補 足 資 料

(単位：億円)

	2017.2Q	2018.2Q	増減	
	金額	金額	金額	前年同期比
酸素	127	144	+17	113.3%
窒素	148	144	▲4	97.5%
アルゴン	67	69	+2	103.2%
炭酸ガス	103	108	+5	104.4%
水素	23	25	+2	110.3%
ヘリウム	20	20	+0	102.4%
その他ガス	88	95	+7	108.1%
産業ガス 計	575	605	+30	105.2%
LPガス	103	117	+14	114.0%
灯油	21	24	+3	113.2%

(単位：億円)

		2017.2Q	2018.2Q	前年同期比
北海道エア・ウォーター ※1	地域事業会社	245	256	104.5%
エア・ウォーター炭酸	産業ガス	76	79	103.2%
エア・ウォーター防災 (連結)	医療 (病院設備工事ほか)	107	100	93.8%
エア・ウォーター・メディエイチ	医療 (SPD・滅菌)	196	209	106.9%
春雪さぶーる (連結) ※2	農業・食品 (冷食・ハムデリカ、スイーツ)	157	149	94.7%
ゴールドパック	農業・食品 (飲料)	269	271	100.8%
九州屋	農業・食品 (青果販売)	128	139	108.8%

※1 2018.2Qには日江金属 (2018年度第1四半期より新規連結) の売上高を含む。

※2 プレシアホールディングス (2017年度に春雪さぶーると合併) の売上高を含む。